

英検 2 級にライティング、 4、5 級にスピーキングテストを導入！

英語試験 4 技能測定へ向けて変革が進む！

旺文社 教育情報センター 27 年 11 月 12 日

このほど公益財団法人 日本英語検定協会(以下英検協会)は 2 級にライティングテスト、4、5 級にスピーキングテストを来年 28 年 6 月の第 1 回検定より導入することを発表した。

[背景]

今回の試験内容の改定の背景には、文部科学省が次期学習指導要領改訂に向けた「教育課程企画特別部会における論点整理」にて、小・中・高等学校各段階での外国語活動・英語教育の学びを接続させ、継続して 4 技能を総合的に育成することを求めている点、加えて文部科学省の諮問機関である「英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」にて、生徒の英語力評価に 4 技能をバランスよく測定できる資格・検定試験の効果的活用を促進していく旨が明記されたことがある。

＜平成 28 年度 第 1 回検定以降の英検各級の測定技能＞

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
リーディング	○	○	○	○	○	○	○
リスニング	○	○	○	○	○	○	○
スピーキング	○	○	○	○	○	○ 2016年 第1回から 開始	○ 2016年 第1回から 開始
ライティング	○	○	○ 2016年 第1回から 開始	早期実現を 目指し 準備中	早期実現を 目指し 準備中	未定	未定

英検協会によれば、現在実施している各級全てにおいて今後 4 技能化を目指す中、第一歩として今回 2 級にライティング、4、5 級にスピーキングテストを導入するとしている。

日本人は中学、高校、大学と長い期間英語を学習するにもかかわらず英語を使うことができないと言われる。この課題を克服するための施策として、英語の授業でも「話す」・「書く」の発信力が求められることに加え、英語試験でその能力を測定し、学習成果を可視化していくことは今後の英語教育に大きな影響を与えるであろう。

文部科学省の意向からも、英検に留まらず多くの英語試験が 4 技能を測定する方向へ進むことは間違いないと思われる。しかし、それぞれの英語試験が何を目的として(大学進学・留学のためなのか、ビジネスでの使用なのか等) いるのかについても注意が必要だ。

例えば中学や高校での英語学習の定着を測るのであれば、学習指導要領に準拠している英検、大学教育にふさわしい英語力を測るのであれば、大学入試を想定して開発された TEAP が挙げられる。

今後は試験の 4 技能化に加え、何のための英語力を測定する試験なのかをユーザー(受験者・指導者)側が見極めて目的にあった試験を選択し、学習成果の尺度として活用していくことが重要であろう。